

入鹿小だより

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 30年 3月 14日
第 25 号

紀和のこと いっぱい勉強したよ

3月2日（金）は6年生のお別れ社会見学でした。今年はこれまでふるさとの素晴らしさを勉強してきた総まとめとして、紀和町一周をしてきました。見学場所は丸山千枚田、赤木城跡、田平子供養塔、英国人墓地、板屋九郎兵衛の墓、瀧流荘、湯ノ口温泉、鉱山資料館、お菊の墓とお馴染みの所。これまで勉強した内容をまとめた「紀和町の歴史」という冊子を手に、教室で勉強したことを実地で確認しながらの勉強です。子どもたちにとっては「初めて来た」という場所もあり、身近にあるが故の珍しさもありました。

将来、この素晴らしい「ふるさと紀和」を背負って立つ子が現れば、紀和町はもっと発展するかもしれません。そのような子どもを育てていくことが学校の使命でもあると思います。



赤木城跡にて



瀧流荘の裏山展望台にて

6年生へ感謝の気持ちを伝えよう！

3月5日（月）の午後、「6年生を送る会・学習発表会」を開催しました。これまでお世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えることと、これまで学習してきた成果をみんなの前で発表する事を兼ねた行事でしたが、各クラスとも心のこもった、また、工夫を凝らした発表で、素晴らしいものとなりました。

今年は地元の老人会長の方々はこの会の案内の配付をお願いしたところ、当日はたくさんの方々から学校へお越しいただきました。強めの雨が降る中をお越しいただき、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。

尚、この会の司会や運営は5年生が行いました。次年度の入鹿小学校のリーダーたちは6年生に見習えと立派に役割を果たし、きちんと育てていることを証明してくれ、とても頼もしく思いました。



1・2年生「カイミー」



3・4年生「千枚田クイズ・点字クイズ」



5・6年生英語劇「材木と5匹の子豚」

マナウス日本人学校へのお客様

入鹿小学校にときどきお客様がいらっしゃいます。マナウス日本人学校へもときどきお客様が来ます。ところがマナウスの場合、お客様と言っても、人間ばかりとは限りません。人間でなければいったいなんなのでしょうか。その答えは、動物たちです。

1. ナマケモノ (Preguiça : プレギーサ)

ナマケモノという動物をご存知ですか。そのゆっくりとした動作から「ナマケモノ」という呼び名がついており、生涯のほとんどを木にぶら下がって過ごします。反面、手足の指には鋭い爪があり、この爪のおかげで木にぶら下がっていることができます。学校のプールの裏がジャングルですので、そこから時々やってきます。週に1回程度、木から降りて地上で排便、排尿を行うそうですから、そのついで(?)に学校へやって来るのでしょうか。(写真がわかりづらくて申し訳ありません)



2. イグアナ (Iguana)

ナマケモノ以上によくやって来るのがイグアナです。木の上にいたり、地面を走っていたりいろいろです。写真のもので体長50cmくらいです。イグアナを見つけると中学生の男の子たちがタモをもってイグアナを捕まえに走ります。しかし、敵もさる者。そう簡単には捕まりません。めでたく捕まえることができると、学校で飼育します。イグアナのエサは子どもたちが植えたサツマイモの茎と葉です。



3. アナコンダ (Anaconda)

さすがにアナコンダは3年間で1度しか見ませんでした。しかも直接やってきたところを見たわけではなく、学校の裏のジャングルにいたのを、近所のおじさんが捕まえて見せに来てくれたものでした。このアナコンダは体長3mほどあったと思います。胴の太さとおじさんの太ももの太さがあまり変わらないのがおわかりいただけるでしょうか。



他にも、ハチドリ、タランチュラ、コンゴウインコ、モロフォ蝶、そして近くの川にはワニと、たくさんのお客様がやって来ました。マナウスは動物天国でもあったのです。

大切なことを忘れていました。入鹿小学校へも人間以外のお客様はやって来ますね。サル、シカ、イノシシ、キジなど…。入鹿小学校も実は動物天国なのですね(笑)。

